



〒965-0871
 会津若松市栄町2-14
 レオクラブガーデンスクエア5F
 ☎(0242)93-7950 ■FAX(0242)85-6863
 ■E-mail info@terakoyahoujyousha.com

寺子屋方丈舎は、学校外の子どもの学びの場所として1999年に設立したフリースクールです。現在、7歳から21歳までの若者を受け入れています。



子どもは「群れ」で育つ

びにくいという特徴があります。これは、学校に通う生徒も、不登校の生徒も同じことが言えます。

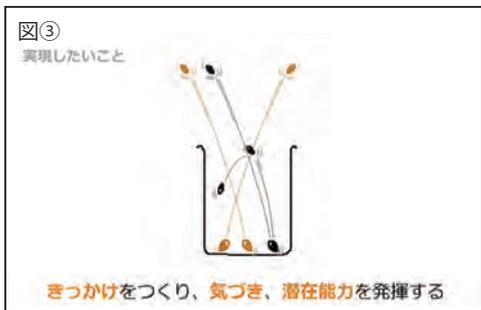
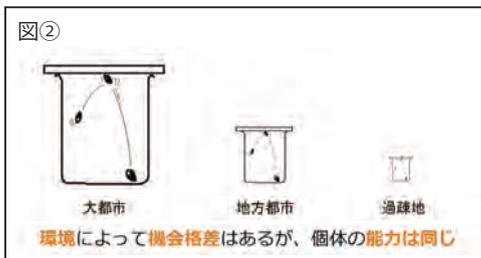
子どもを抑えている「フタ」を取り自由に行動させます。もともと、能力は都市の子どもと同じなので、「きっかけ」さえ提供すれば、どんな子どもも潜在能力を發揮します。

横につながって、能力を發揮し続ける仲間を見たり、関わりながら、無意識にお互いに育ちあうことが将来の力になります。能力を發揮している子どもを、うらやん

だり、邪魔したり、陰口をいうのではなく、できている人のマネをしてみます。一緒に行動してみることが大事です。フリースクールでは個人の限界を押ししないで、仲間づくりをします。多様な学びの機会をつくり、ひたすら潜在能力を高めてゆくようにしています。

個別の相談だけでは、人間の学び合いの機会が非常に少なくなります。これでは、個人の能力を十分に發揮させるような、大きな変化をおこすことができません。【図③】子どもは、群れで育ち合います。私たち大人は、「きっかけ」をつくり続けるだけなのです。

(つづく)



子どもを受け止める親のために(3)

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎 大関 勇気

不登校は個別で対応すると つらくなる

現在、不登校の小中学生の児童数は十六万人を超え増加傾向にあります。福島県では二一一人で過去最高となりました。(二〇一八年度・文科省の問題行動調査結果) 中学校であれば、二七人に一人が不登校の状態にあります。自分の子どもだけが不登校であるはずはありません。しかし、保護者同士が情報交換や過去の不登校の事例(大人になるまでの成長過程)を知る機会や、経験者の話を聞く機会がないので、自分たちだけの問題だと思いついてしまっています。

個別対応をすると、「他の子どもと同じ」になれない自分の子育てをせめ、後悔しています。私たちのフリースクールには、これまで多くの人の喜びや、成長の過程が残されています。この経験から

学び合うことがとても大事です。他人の「経験」という、財産に肩車されて視点を高くしてゆく。より遠くを見通すことで、親自身も成長できるし、子どもを無自覚に、反省させたり、追い詰めることもなくなります。過去の経験が活かされる場がフリースクールです。

わかりやすいように描いた図を見てください。【図①】不登校は、本人の能力不足ではなく人と同じことをする「同調する力」がないだけです。図で示しているのは「ノミ」の実験です。フタをしているのは「従来の教育システム」や「周囲の保守的な価値観」「同調圧力」です。【図②】都市と地方都市と過疎地によって子どもへの行動半径が変わるのは「参加機会の格差」です。都会では機会が多いので行動しやすいです。過疎地では個人の能力差はないのに、教育機会が少ないので、能力が伸